

令和3年度第3回 きよみ野地区地域支え合い会議 議事録

日 時：令和4年1月21日（金）
午後1時30分から午後3時30分
場 所：吉川市役所304会議室

〈参加者〉

きよみ野西自治会辻田会長、きよみ野東自治会妹尾副会長
きよみ野西地区：伏見民生員・伊勢谷民生委員
きよみ野東地区：竹林民生員・成田民生員・伊東民生委員
長寿支援課：豊田、金澤
市民参加推進課：松井
生活支援コーディネーター：浦上
第一地域包括支援センター：石岡・大友
社会福祉協議会：日高・谷口

計15名

1 開 会

2 前回の振り返り

3 議題

① きよみ野地区学習会の検討・方向性について

〈辻田会長より事前の資料を共有〉

- ・「住民がつくる自立した地域コミュニティの形成に関する調査研究報告書」について各参加者へ共有した。
広い人材に視点をあてた文献となっており、支え合い会議を行う上で参考になるのではないかと。
- ・現在行われている支え合い会議のメンバーは高齢化しているため、検討する場として長期にわたる持続性が担保されないことが課題となるのではないかと。
- ・現役世代や若者世代の取込みが弱いと感じている。
- ・リタイア世代の話し合いだけで留まることがないように、現役世代のスキルをいかしていく必要があるのではないかと。

〈市民参加推進課 松井係長より〉

- ・自治会の問題として、男性が多く高齢化が進んでいることがあげられている。どの自治会においても加入率の低下・コミュニティの衰退が課題となる。
- ・令和元年度より自治連合会をとおして「地域課題を地域で解決するための勉強会」を実施している。会長以外でも参加可能なので是非活用いただきたい。

<グループワークにて各課題や資源について考える>

きよみ野西自治会

- ・民生委員として独居高齢者の見守りを行っている中で、散歩をしたくても一人では出られない方の付き添いや、時々買い物支援をしている。
⇒話し相手がいないことで気持ち的にも落ち込んでしまうことがある。また、外出機会が減ることで家に閉じこもりがちになっている人が多く見られる。
- ・自治会の規模が大きく顔の見える関係づくりが難しくなっている。
⇒歩いていける居場所づくりを広げることで顔の見える関係づくり、見守りができるのではないかな。
- ・フレッシュでは1月から集会室を利用してサロンが開催された。
⇒既存活動の周知も合わせて行えるとなおよいのではないかな。（自治会のHPや広報利用する等）
- ・認知症の人が多く見受けられるようになった。
⇒本人を責めるのではなく、周りがあたたかく見守れるように地域住民に知ってもらう機会を作ることが必要。
- ・自治会役員で地域課題を考えるためにグループワークを行ったところ、災害時の初動対応について意見が多くあがった。
⇒地域コミュニティを考える上で防災・減災を切り口として活用することができるのではないかな。ポケットパーク（地域コミュニティの公園。10ブロックにて管理）の組織を利用してブロックごとの避難支援を想定している。民生委員を中心に行っている日頃の見守り活動の共有と合わせて地域コミュニティの拠点づくりとしてポケットパークを活用することができるのではないかな。
他地域では、災害時に備えた避難行動要支援者名簿の整理と合わせて平時の見守り活動の強化や、スマホ教室などを活用した平時からの地域コミュニティについても進めている事例がある。
- ・民生委員と自治会一員としての視点の違いはあるが、最終的な連携を図れるようにする必要がある。
- ・介護保険のサービスを利用することによって、地域のつながりが分断されてしまい、孤独を感じてしまうという声が多く聞かれる。

きよみ野東自治会

- ・課題を抽出するには明文化することが必要
- ・世代別になっている課題の歯車がかみ合っていない。
⇒世代を超えて繋がれる場所・機会をつくる。
- ・何か起きた時、だれに（どこに）相談すればいいのかな。
⇒一人で抱えてしまう…誰かに話せる、外に出せる場所が必要となる。
また、自殺者が増えてきているため子ども食堂やフードパントリーを活用して子育て世代と連携したほうが良いのではないかな。
- ・なんだかんだ言っても挨拶・声かけが大切！

- ・子供会・老人会など各世代で分かれているが分野ごとに課題が切り離されているため、どこの課題にもはまらない人たちが出てきてしまう。
⇒住民はどこに相談をしたらいいのかわからない。つながり方がわからない。
- ・元気があるからやる！ではなく何かやっているから元気！ということが大事
⇒地域のつながりがきれないように、安心できる場所・居場所づくりが必要。
- ・ポケットパークを拠点にしたつながりづくりができるのではないか。

4 まとめ・次回検討内容

- ・現在の会議をフォーラムに向けた準備会として位置付けを行い、様々な問題を整理しながら時間をかけて進めていく。参加メンバーも、より課題が見える化できるように検討をしていく。
- ・それぞれのグループで出た課題を整理していき、今後どのような活動者に協力をお願いするとよいか検討する。（サロン代表、なまらん体操リーダー、自治会関係者、よりよいきよみ野をつくる会のメンバーなど）
- ・今後、きよみ野地区の支え合い会議を進める中で県の総合支援チーム（さわやか福祉財団 岡野氏）の派遣を依頼し、助言をいただきながら進めていけるよう長寿支援課で調整を行う。
- ・会議の開催頻度については、隔月に1回とし必要に応じて月1回の開催とする。

5 次回の開催 3月15日（火）13：30～ 老人福祉センター（予定）